

令和4年度

馬伝染性疾病防疫推進対策事業

# 馬鼻肺炎の 発生・拡大を防ぐために



一頭一頭のワクチン接種で



妊娠馬の流産を予防しよう!

# 馬鼻肺炎とは



- 馬鼻肺炎は、ウマヘルペスウイルス1型 (EHV-1) 又は4型 (EHV-4) によって起こる感染症です。
- EHV-1は、若齢馬の呼吸器病、妊娠馬の流産の原因ですが、まれに神経疾患を起こすことがあります。
- EHV-4は、若齢馬の呼吸器病の原因ですが、まれに流産を起こすことがあります。
- **馬鼻肺炎による流産は、妊娠後期に発生し、生産農家に重大な経済的損失を与えています。**
- **水平感染による連続的な流産発生は、「流産の嵐」あるいは「継続(続発)」と呼ばれ、世界中の馬生産地で恐れられています。**

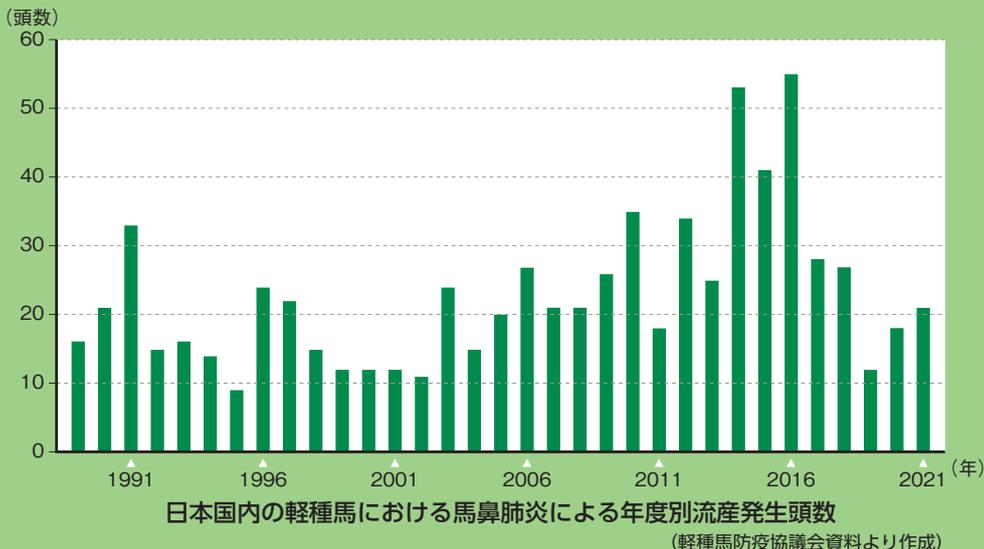


膿性鼻汁

## 馬鼻肺炎の感染様式

### 馬鼻肺炎ウイルスは、

- ウイルスは鼻汁中に排出され、飛散した飛沫により周囲の馬に感染を広げます。
- 感染馬の鼻などを触った手や鼻捻子、衣服などを介して感染することもあります。
- ウイルスは、一旦感染するとリンパ節や神経に**生涯潜伏**し、ストレスなどが原因でウイルスが再活性化して**再発症**することがあります。
- 生産地の育成馬では、季節に関係なくEHV-4感染による呼吸器病の発生が認められます。
- 馬鼻肺炎ウイルスによる流産の場合には、流産胎子の臓器に多量のウイルスが含まれています。
- 羊水にも多量のウイルスが含まれており、羊水で汚染された人や物を介して他の妊娠馬に感染を広げてしまう危険性があります。



# 流産が発生したら

- ウイルスや細菌を拡散させないように流産胎子及び敷料などは、ビニール袋等へ入れ、速やかに家畜保健衛生所へ連絡して指示を受けてください。
- 流産馬の馬房、器具、作業着、作業靴など羊水で汚染された可能性のある全てのものの消毒を速やかに徹底して実施してください。
- 流産馬は、他の馬から可能な限り速やかに隔離して、管理も別に行ってください。

消毒を徹底しよう！



流産胎子・胎盤を密封した袋に入れ消毒薬をかける。



2

使用済みの敷きわらを、密封した袋に入れ、外側を消毒する。



3



1

流産胎子

流産馬は隔離して、他の妊娠馬を守ろう！



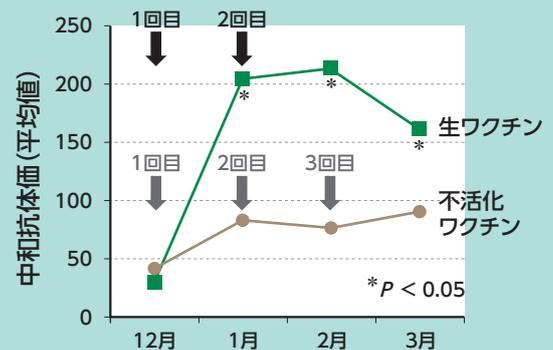
4

馬房内の消毒を行なう。

## 馬鼻肺炎生ワクチンは

- 効能・効果は、「馬ヘルペスウイルス1型感染による、妊娠馬の異常産（流産、妊娠中の胎子死亡または生後直死）の抑制」です。
- 平成28年度以降妊娠馬への接種が行われていますが、副作用報告はなく、安全です。
- 生ワクチン接種群は、不活化ワクチン接種群と比べて、強い免疫応答が期待されます。
- ワクチン株が馬体内で潜伏感染し、再活性化する可能性は低いです。
- ワクチン株の同居感染性の可能性は低いです。
- 集団接種により、同一牧場内での続発予防効果が期待できます。

馬鼻肺炎ワクチン接種馬の中和抗体応答



生ワクチンを接種(2回)した競走馬の血清中の中和抗体価は、不活化ワクチンを接種(3回)した馬に比べて有意に高い。(Bannai et al., 2019. BMC Vet. Res. 15: 280)

# 予防

## 飼養衛生管理基準の遵守とワクチン接種!



- 日頃から厩舎や器具等の清掃、消毒を心がけましょう。  
馬ごとに手袋や鼻捻子などの交換あるいは手指の消毒を徹底しましょう。
- 消毒薬は、使用説明書に従い用法、用量を守って使用しましょう。
- 生ワクチン接種を徹底しましょう。
- **妊娠馬に、4週間隔で2回接種します。**

**1回目** 妊娠6～8か月

**2回目** 1回目接種の4週間後

- 妊娠馬(特に妊娠後期)には、ストレスを与えない飼養管理を心がけましょう。
- 輸送や環境の変化によるストレスがウイルスの再活性化を起こすことがあるため、新規導入馬は、3週間以上、他の馬から隔離しましょう。
- 若齢の育成馬は、妊娠馬とは別の厩舎で飼養し、管理も別に行いましょう。

### 馬鼻肺炎ワクチン接種の助成内容

- 繁殖牝馬を対象に、馬鼻肺炎生ワクチンを2回接種した場合、接種費用の1/2を助成します。
- 接種費用等詳細内容は、最寄りの診療獣医師・畜産協会等に相談してください。
- 本病による流産発生予防のため、馬伝染病疾病防疫推進対策事業を活用した生ワクチン接種を励行しましょう!



事務局：公益社団法人中央畜産会 衛生指導部

〒101-0021 東京都千代田区外神田2-16-2 第2ディーアイシービル9階

TEL. 03(6206)0832 FAX. 03(3256)9311

E-mail: eisei@sec.lin.gr.jp